

件 名	新たな墨田区立学校適正配置等実施計画案の実施見直しに関する陳情			
提 出 者 住 所 氏 名	墨田区押上一丁目５１番４号 新日本婦人の会墨田支部 支部長 千 葉 田鶴子			
受理年月日	平成２０年２月６日	受理番号	第２号	

要 旨

新たな墨田区立学校適正配置等実施計画案による小・中学校の統廃合計画を見直してください。

(理 由)

国の基準では、４１人になるまでクラスを分けないことになっていますが、東京都を除くすべての道府県では、いろいろな工夫ややりくりをして少人数学級（３０人学級、３５人学級）を始めています。

新たな墨田区立学校適正配置等実施計画案は、４０人を基準に統廃合を実施することで３０人以上の学級が増えています（梅若小学校と堤小学校、中川小学校と東吾婦小学校等）。

少人数学級では「一人一人の児童・生徒の特性や実態を早く把握することができ、個に応じた適切な指導を行うことができる」と成果が報告されています。私たち新日本婦人の会墨田支部が保護者に尋ねたアンケートでも「小学校１年生の娘のクラスは３８人、先生が一人一人の個性をつかむのは難しい。でも先生は責められない」「１、２年生は３０人でも大変」「小学校は３０人学級が良いし、学力も上がるのでは」「子どもの実情に合わせ教員を増やしてほしい」「何億円もの予算をかけて学力テストをするより、３０人学級にしてほしい」との声が寄せられています。４０人学級を基準にした実施計画案を見直し、早期に３０人学級を実施していただきたいと思います。

学校は、児童・生徒を真ん中にして地域と学校が助け合い、子育てをする「共同経営者」とも言うべきものです。今までの墨田区は、地域の人々に守られながら学校が息づいてきたことを誇りに持つところでした。ところが、学校選択制の導入で地域が破壊されています。保護者のアンケートでも「小規模校を淘汰する意図がみえる」「学校格差が出ているようだ」「小規模校を支援することでもっと充実した教育環境ができるのではないか」「今の子どもたちには、学力よりも心を豊かに育てることが大切」「人間関係を豊かにする遊びは、地域でつくられる」「小学校は地元の方が良い」などの声が寄せられています。このような不安・疑問に応えるのが、教育行政のあるべき姿だと思います。学校選択制継続の見直しと併せて、新たな墨田区立学校適正配置等実施計画案の見直しをしてください。

以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以 上